

# 一人ひとりの物語が「ふるさと」をわくわくさせる

どんな春を  
迎えていますか？

## 新しい春の始まり

### 令和3年度がスタートしました

#### 誰もが「ふるさとの担い手」

東日本大震災の発災から丸10年という節目を越えて迎えた令和3年度。飯館村第6次総合振興計画の実施初年度でもあります。

長泥地区を除く村内の避難指示解除からは、4年が過ぎました。帰村して自宅に戻った人、避難先と村内を行き来して暮らす人、家族が避難先と村内に分かれて暮らす人、村外に暮らし村内で仕事をする人など、さまざまなスタイルが生まれ、その変化も続いています。さらには、村へ移住し村民となる人、村外から飯館村に関わり続けている人も数多くいます。

多様な力をかけ合わせて、新しい村づくりが進められます。誰もが「ふるさとの担い手」です。それぞれの関わり方で、ふるさとの新しい歩みを楽しんでいきましょう。



佐藤瑠満成さん 佐藤美絵さん  
(小宮)

美絵さんが嫁いだ南相馬市で生まれた瑠満成さん。小宮の家には、夏休みや年越しを過ごした楽しい思い出があります。その後、父の仕事で鳥取県に転居。東日本大震災の発災

は、学校の職員室のテレビで知ったそうです。避難指示が解除されて、祖母が帰村。間もなく瑠満成さん達一家も、一緒に暮らすことになりました。美絵さんは、「までの里のことも園」で給食調理の仕事で、瑠満成さんは、道の駅を運営する「までいガーデンレヅジ」に勤めています。瑠満成さんは、この4月から、道の駅に併設のコンビニエンスストアの店長も務めます。「顔なじみになった方から声をかけてもらえるのがうれしいですね。村で生活する人の必需品をそろえ、ここに来れば何でもあると思ってもらえる店にしたい」と話します。「そして、心の拠り所にもなっていたらいいですね」。

瑠満成さんの言葉を聞いて、「彼なりに頑張っているんですね」と笑顔を見せた美絵さんもまた、現在の職場を楽しんでいます。「子ども達は大人が考えつかないことを言ったりするので、楽しくなります」。そして美絵さんは、大の動物好き。家には、ヤギや犬もいて、次はニワトリもいな…と思案中だとか。ますますにぎやかな佐藤家になっていきそうです。

#### それぞれに飯館ライフを楽しんでいます

#### 家族を大切に、暮らし方はゆるやかに



赤石澤富夫さん 赤石澤武光さん  
(大久保・外内)

「いいたて愚真会」で長年活動している、蕎麦打ち名人の武光さん。この春からは「いいたて村の道の駅までい館」のレストランで出す蕎麦を、仲間と交替で打つことになりました。武光さんの妻の笑子さんが介護サービスを利用してのことから、車椅子でも動きやすい家を川俣町に建て、村内の家も建て替えて、息子の富夫さん夫婦と共に、2地域での暮らしを続けてきました。その笑子さんは、新しい家で過ごした後に、昨年他界されたそうです。富夫さんは、家業であった「赤石澤工業装飾」の現代表です。村内の自宅に併設の会社を拠点に、内装工事と畳業を営んでいます。震災後の何年かは、村の仮設住宅の建設などにも携わり、多忙な日々を送りました。今回建てた自宅はどちらも、富夫さんの経験を活かした素敵な住宅です。富夫さんは、この仕事を続けながら、今年の後半からは、夫婦で農業を再開しようと思っています。「年をとってからも、つくりやすいと聞いたので」と、小菊の栽培に挑戦する予定。「少しづつね」とはにかみました。「まだ先のこととは分からないけれど、近くに住む孫が大きくなったら、ゆくゆくは村に戻りたいと思っていますよ」。

武光さんも「本当は毎日でも村に来たいんだ」と話します。武光さんはこの4月で85歳に。家業と農業、蕎麦打ちや山登りの会などで、丁寧楽しんできた村の暮らしを、懐かしく思い出しています。「今年も食べる分だけ畑をうなつて蕎麦をまくよ」と話す、少年のような笑顔になりました。

「ヒマワリ畑は今年もやるよ」と笑顔の勝男さん。阿部家のヒマワリ畑は、メディアやSNSで取り上げられ、毎年遠くからも見物客がやって来ます。阿部家の朝は早く、起床はなんと4時半。和翔さんは福島市内の高校に通学しています。避難中は伊達市から仮設校舎に通っていましたが、和翔さんは「飯館中学校には家から通う」と言い続けていたそうです。勝男さんと妻のセツ子さんは、避難指示解除の時期が決まるとすぐに自宅の改修に着手。学校が村内に戻るタイミングで、和翔さんも両親と共に帰村しました。しかも和翔さんの同級生は全員が、村内に戻った飯館中学校に入学しました。和翔さんは、いずれ、祖父・勝男さんの農業を継いでいきたいと思っています。「うれしいね。これから何を生産しようかなあ」と勝男さん。震災前は、加工トマトやミニトマトの生産に忙しく、和翔さんは幼稚園の頃からバケツを持ち歩いて、楽しそうに手伝っていたそうです。「家が一番。何をしてもいいし」と笑顔を見合わせる2人です。「ヒマワリの1回目の種まきはゴールデンウィーク」。電気牧柵の設置も、種まきも、和翔さんは当たり前のように手伝ってきました。「小さい頃から背中を見てきた。じいちゃん、憧れの人」。高校の友達が泊まりに来てパーベキューをしたり、庭に卓球台を出して家族で卓球をしたり、大好きなふるさとでの暮らしを楽しんでいます。和翔さんの一途な想いは、家族の原動力です。



阿部和翔さん 阿部勝男さん  
(佐須)

#### ヒマワリ咲くふるさとで、家族と暮らそう